

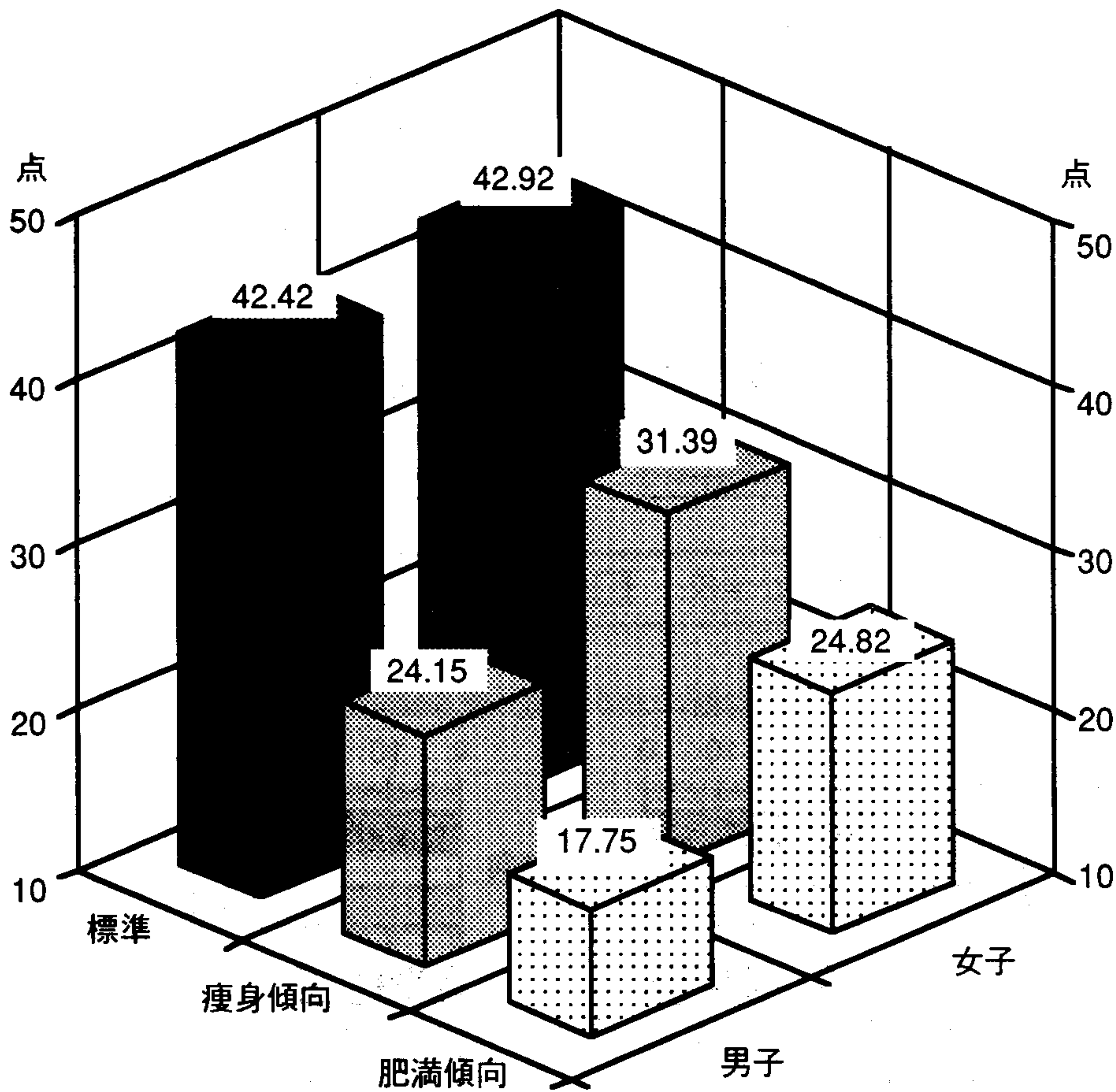
肥満・痩身児の体力・運動能力

痩身傾向児，肥満傾向児ともに4級水準

- 標準児の運動能力テスト合計点の平均値は，男子が42.42，女子が42.92であった。
- 痩身傾向児では，男子の平均値が24.15，女子が31.39であり，いずれも標準児よりもかなり低い値を示した。男女ともに級別判定では4級に相当する。
- 肥満傾向児では，男子の平均値が17.75，女子が24.82であり，いずれも標準児ならびに痩身傾向児よりもさらに低い値を示した。級別判定では男子が5級，女子が4級に相当する。

資料43 運動能力テスト合計点

茨城県教育研修センター，「肥満・痩身に関する指導の手引」，1994



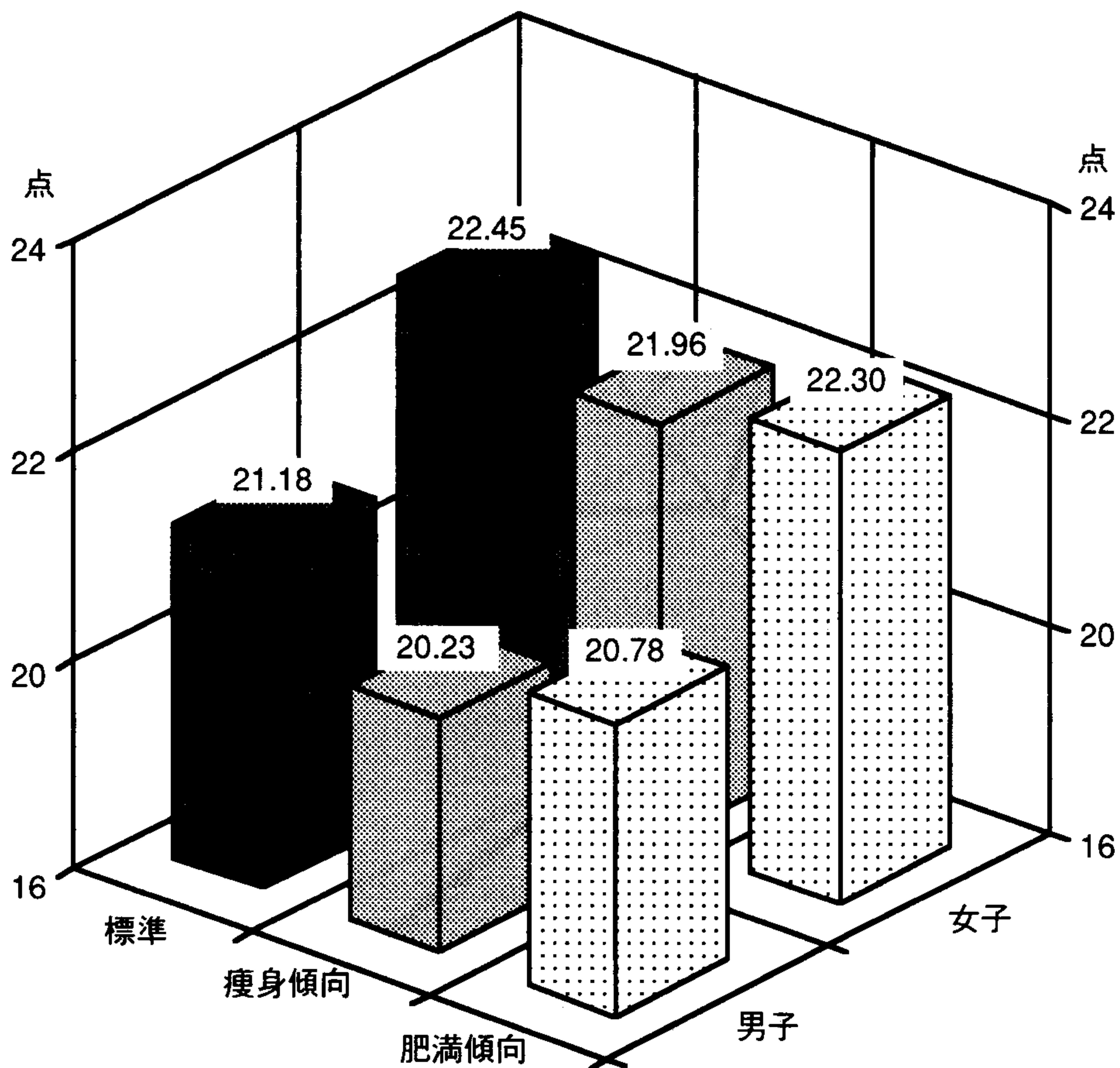
肥満・痩身児の体力・運動能力

男女とも痩身傾向児が低水準

- 標準児の体力診断テスト合計点の平均値は、男子が21.18、女子が22.45であった。
- 肥満傾向児では、男子の平均値が20.78、女子が22.30であり、いずれも標準児よりも僅かながら低い値を示した。
- 痩身傾向児では、男子の平均値が20.23、女子が21.96であり、いずれも標準児ならびに肥満傾向児よりも僅かながら低い値を示した。

資料44 体力診断テスト合計点

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」, 1994



肥満・痩身児の体力・運動能力

肥満・痩身傾向児は懸垂、持久走で低水準

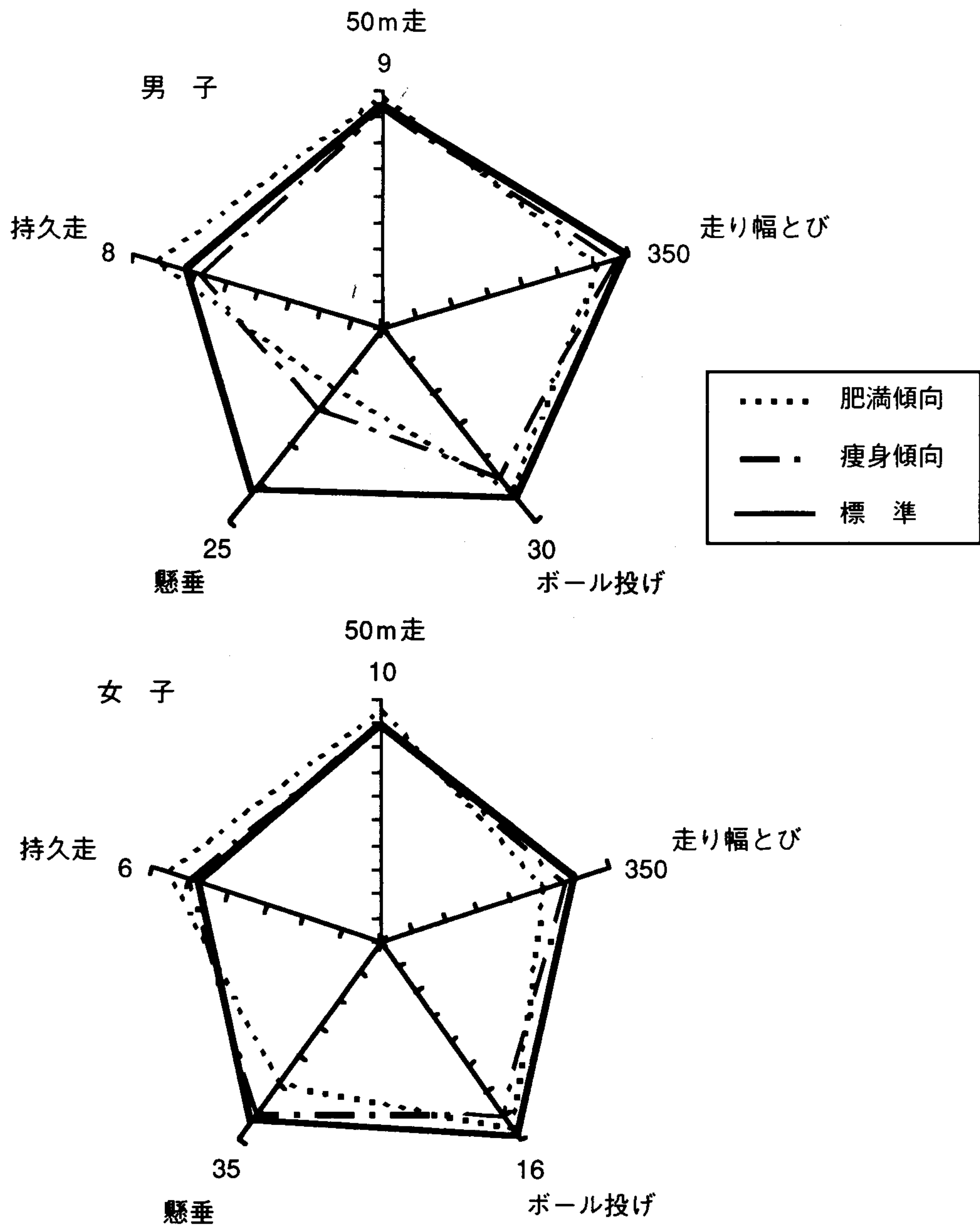
●運動能力の各領域ごとに比較すると、男子では懸垂において特に顕著な差がみられた。標準児の平均値20.92回に対して、痩身傾向児では10.59、肥満傾向

児では7.76であった。

●女子では運動能力領域全般にわたって、痩身傾向児および肥満傾向児が低い値を示す傾向であった。

資料45 運動能力プロフィール

茨城県教育研修センター、「肥満・痩身に関する指導の手引」、1994



肥満・痩身児の体力・運動能力

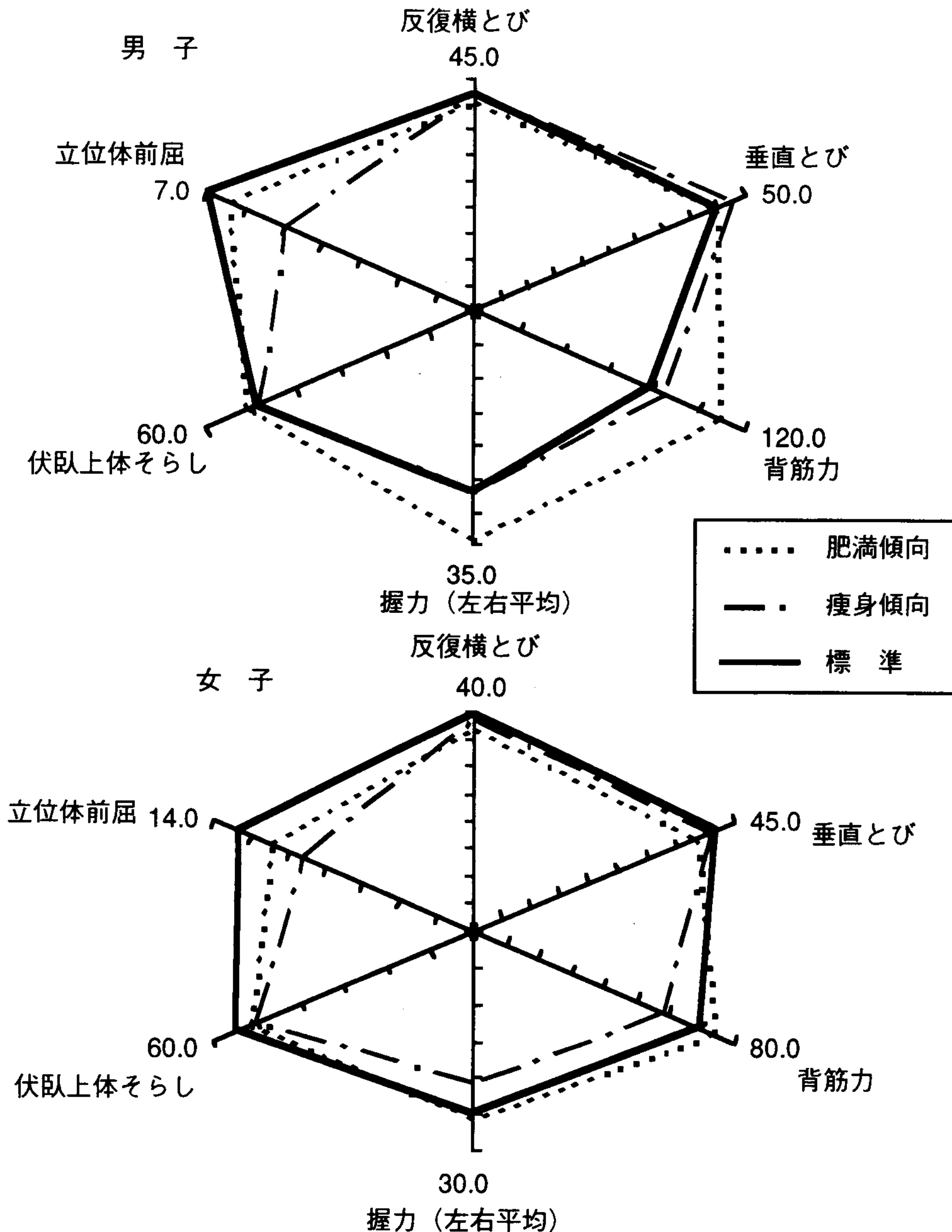
肥満傾向児は静的筋力に優れ，柔軟性に劣る

●体力の各領域ごとに比較すると，男子では背筋力，握力，立位体前屈において顕著な差がみられた。立位体前屈では，標準児の6.96cmに対して，肥満傾向児が6.43cm，痩身傾向児が5.02cmであった。背筋力では，標準児の78.11kgに対して，痩身傾向児が84.07kg，肥満傾向児が109.07kgであった。握力では，標準児の26.99kgに対して，痩身傾向児が26.60kg，肥満傾向児が34.07kgであった。

●女子においても同様な傾向がみられた。立位体前屈では，標準児の12.70cmに対して，肥満傾向児が10.96cm，痩身傾向児が9.32cmであった。背筋力では，標準児の69.58kgに対して，痩身傾向児が58.31kg，肥満傾向児が73.51kgであった。握力では，標準児の24.77kgに対して，痩身傾向児が20.47kg，肥満傾向児が25.58kgであった。

資料46 体力プロフィール

茨城県教育研修センター，「肥満・痩身に関する指導の手引」，1994



肥満・痩身児の体力・運動能力

体重，胸囲において肥満傾向児，痩身傾向児の特徴が顕著

- 男女ともに体重および胸囲において，肥満傾向児が標準児ならびに痩身傾向児よりも大きい値を示し傾向であった。
- 体重について男子では，肥満傾向児が66.10kg，標準児が48.72kg，痩身傾向児が39.92kgであった。女子では肥満傾向児が60.63kg，標準児が44.77kg，痩身

傾向児が36.99kgであった。

- 胸囲について男子では，肥満傾向児が90.07cm，標準児が79.96cm，痩身傾向児が70.37cmであった。女子では肥満傾向児が88.52cm，標準児が74.53cm，痩身傾向児が70.04cmであった。

資料47 体格

茨城県教育研修センター，「肥満・痩身に関する指導の手引」，1994

